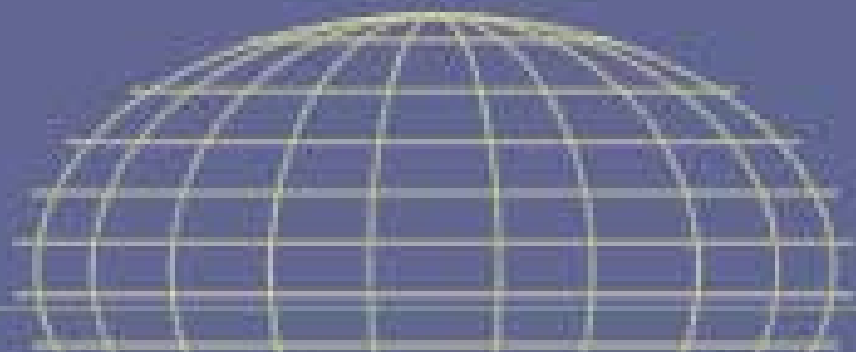




HMK
HAMAKYOREX



2013年3月期 第2四半期決算説明会

2012年11月 8日

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所 市場第一部:9037



- I. 会社概要
- II. 2013年3月期第2四半期 概況
- III. 2013年3月期 下期に向けて
- IV. 2013年3月期第2四半期 決算実績
- V. 近物レックスの現況と今後の戦略
- VI. 参考情報

I . 会社概要



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

I-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、地味ではあるが信頼された重要な存在。当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。

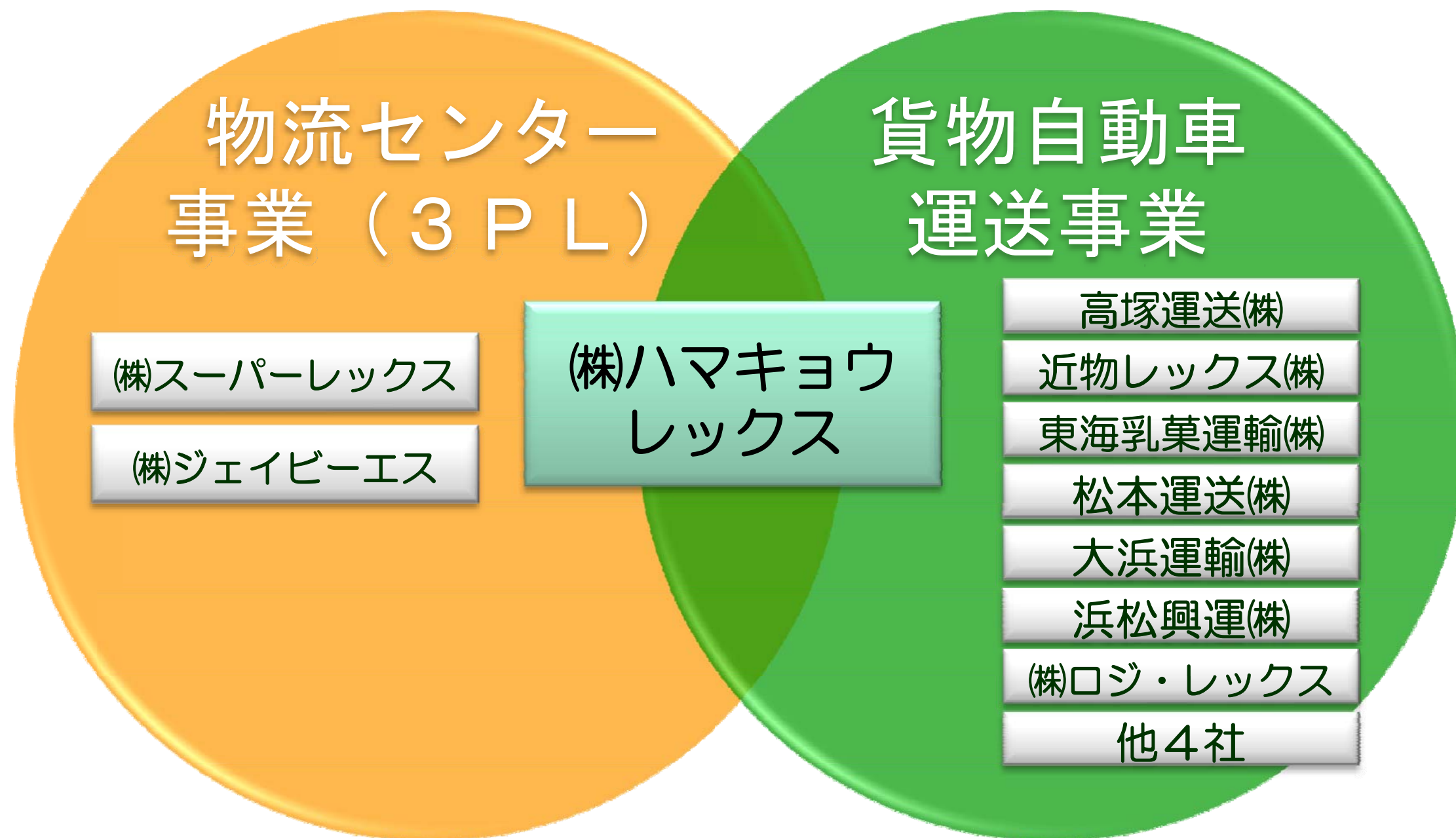


会社概要(2012年9月30日現在)

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 昭和46年 2 月
- 資 本 金 40億4,505万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 4,109名、単体 696名
- 発 行 済 株 式 数 8,356,000株
- 株 主 数 3,423名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 13社
- 売 上 高 連結 441億49百万円
(2012年3月期) 単体 167億26百万円
- 経 常 利 益 連結 33億19百万円
(2012年3月期) 単体 21億56百万円

I-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業（3PL）と貨物自動車運送事業
を中心に展開しております。



Ⅱ. 2013年3月期 第2四半期概況

Ⅱ-1. 第2四半期累計期間の業績

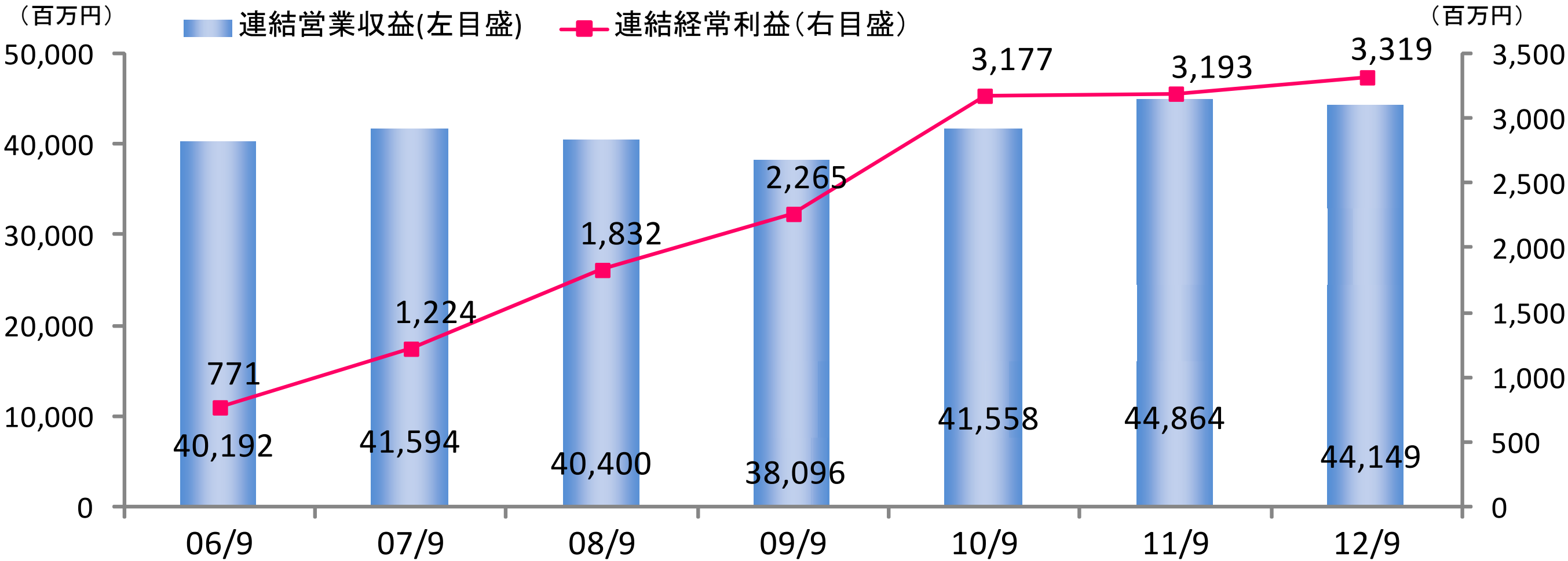
営業収益は、**441億49百万円**（前年同期比 -1.6 %）

経常利益は、**33億19百万円**（前年同期比 +3.9%）の減収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 44,149百万円	△715百万円 (-1.6 %)	△851百万円 (-1.9 %)	・不採算荷主の解約等の影響 ・貨物運送事業での家電関連を中心とした物量の減少
営業利益 3,225百万円	+46百万円 (+1.5%)	△75百万円 (-2.3 %)	・連結子会社の増加による影響 ・近物レックスでの日々管理の強化によるコスト抑制
経常利益 3,319百万円	+126百万円 (+3.9%)	+69百万円 (+2.1%)	・営業利益の増加 ・各種助成金制度による増加
四半期利益 1,728百万円	+86百万円 (+5.3%)	△72百万円 (-4.0 %)	・経常利益の増加 ・特別損失項目の減少

※1 計画は、2012/5/10発表数値

Ⅱ-2. 収益構造



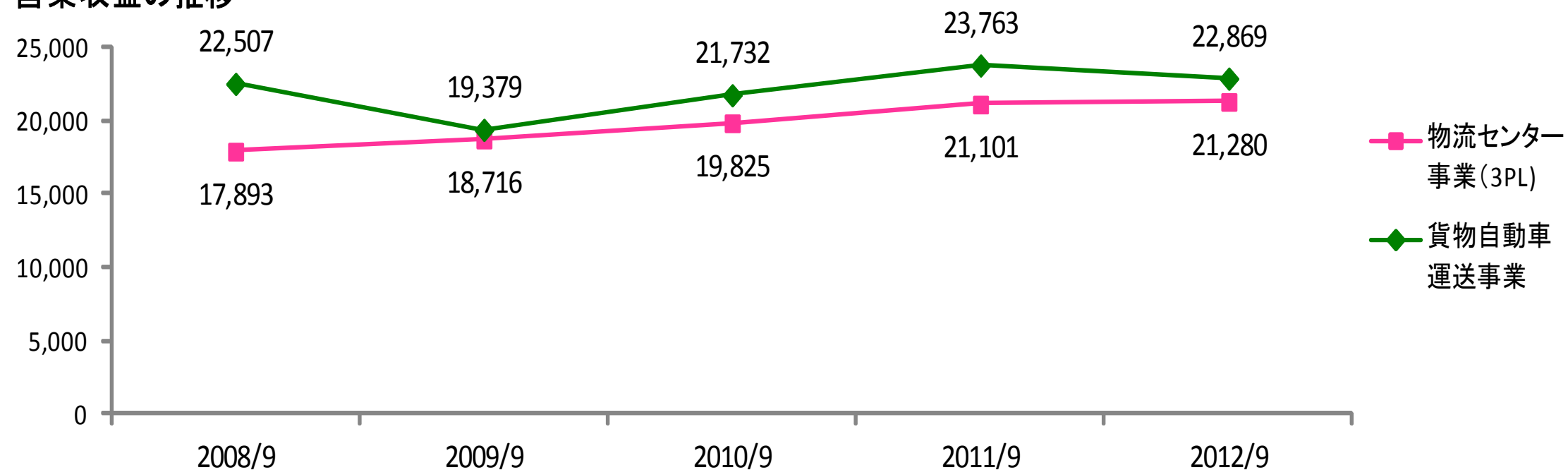
	連結業績	個別業績
営業収益	減収	減収
営業利益	6期連続(過去最高)	減益
経常利益	6期連続(過去最高)	15期連続(過去最高)
四半期純利益	6期連続(過去最高)	5期連続(過去最高)

Ⅱ-3. セグメント情報の推移

(連結:百万円)

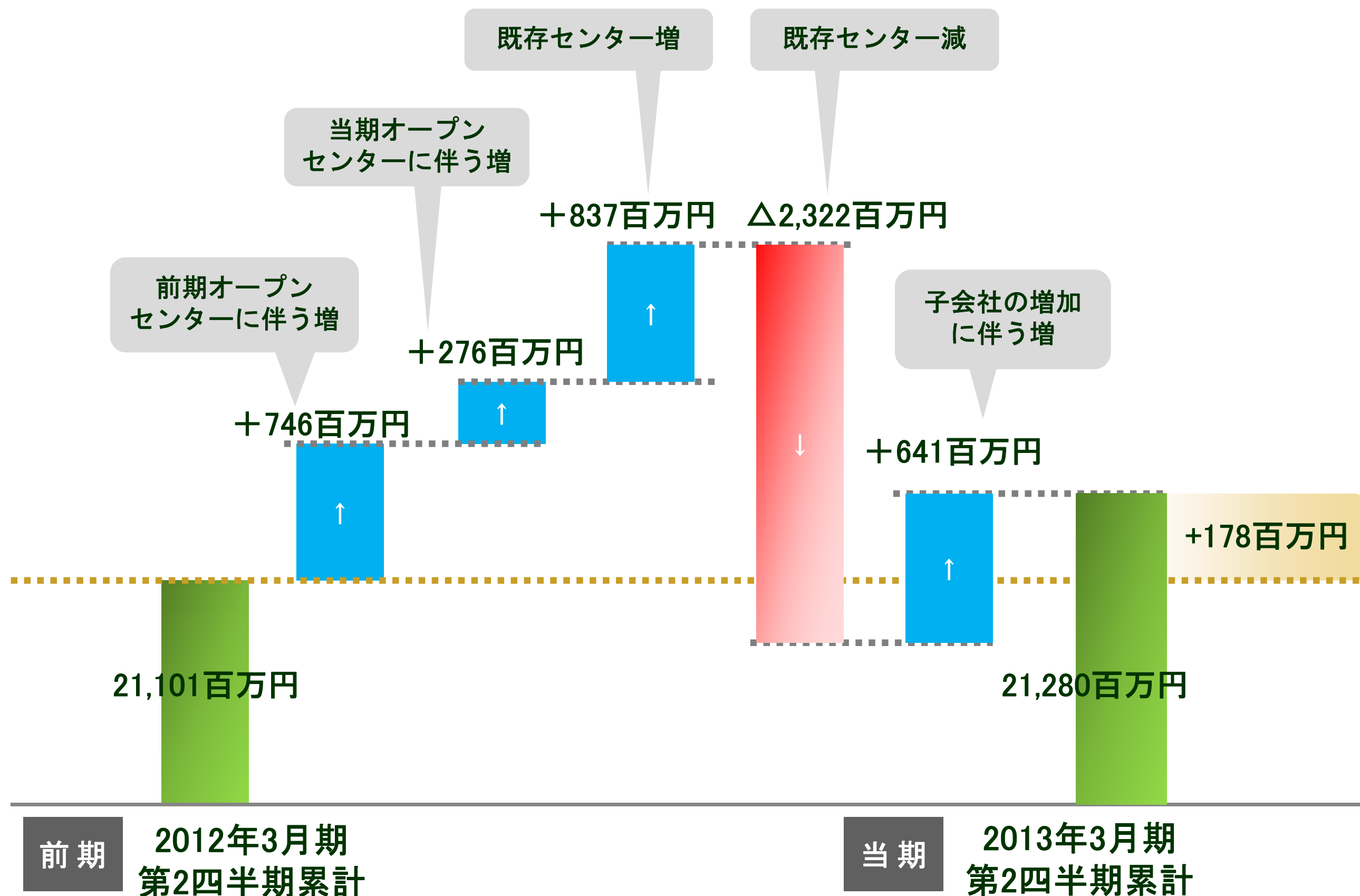
		2008/9 (構成比:%)	2009/9 (構成比:%)	2010/9 (構成比:%)	2011/9 (構成比:%)	2012/9 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	17,893 (+44.3%)	18,716 (+49.1%)	19,825 (+47.7%)	21,101 (+47.0%)	21,280 (+48.2%)	+179 (+0.8%)
	営業利益	1,766	2,185	2,393	2,570	2,543	△27
貨物自動車 運送事業	営業収益	22,507 (+55.7%)	19,379 (+50.9%)	21,732 (+52.3%)	23,763 (+53.0%)	22,869 (+51.8%)	△895 (△3.8%)
	営業利益	113	160	561	607	678	+71

営業収益の推移



Ⅱ-4. 物流センター事業の概況

営業収益の状況



Ⅱ-5. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

●新規受託及び稼働

取扱品目	①	②	③		④	①+②-③-④	memo
	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働		当期 未稼働		
			既存※1	新規※2			
食 品	－	3社	1社	2社	－		
繊維・アパレル	－	5社	2社	2社	1社		
医薬・医療	2社	2社	－	1社	3社		
雑 貨	－	2社	2社	－	－		
計	2社	12社	5社	5社	4社		

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

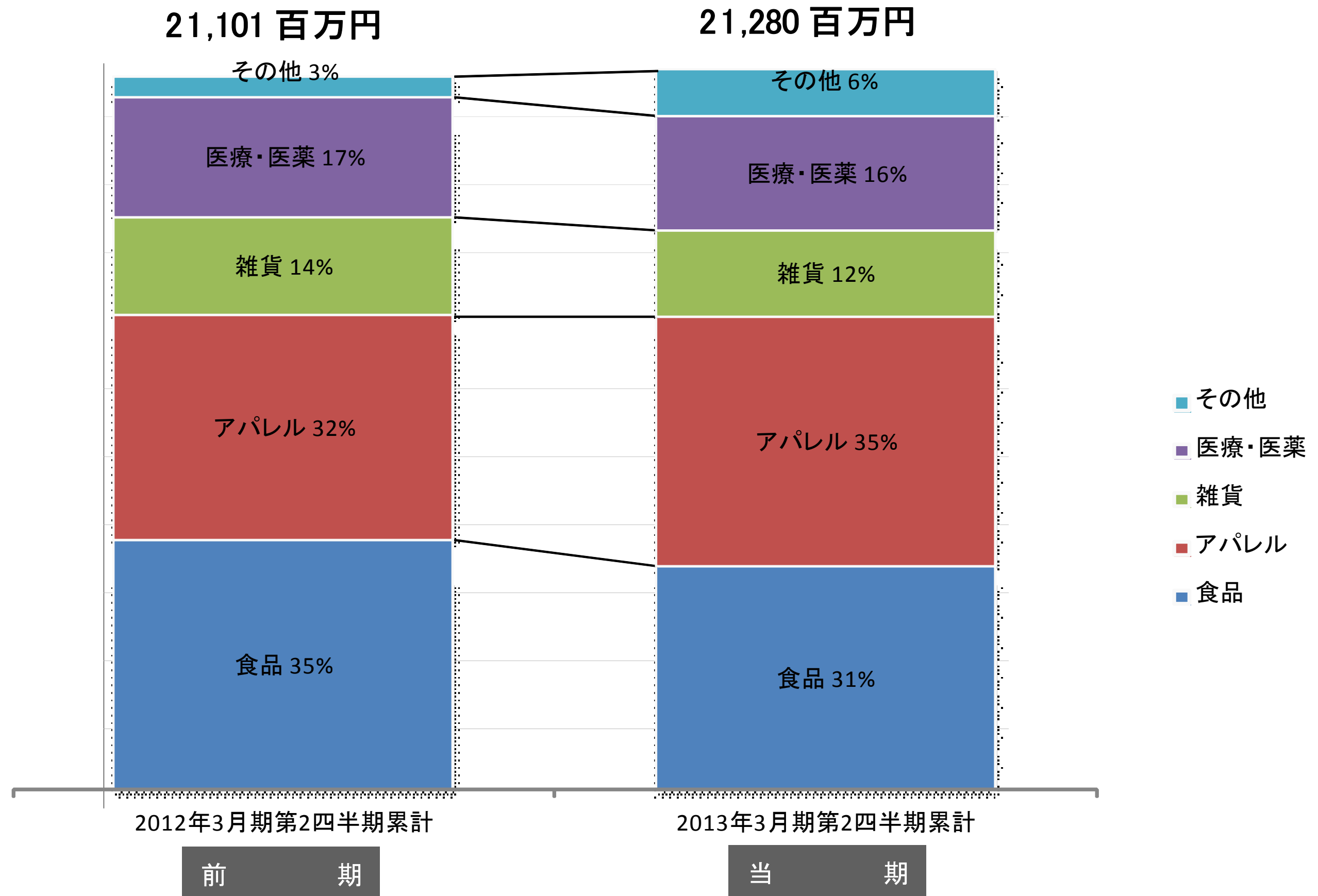


●物流センター数

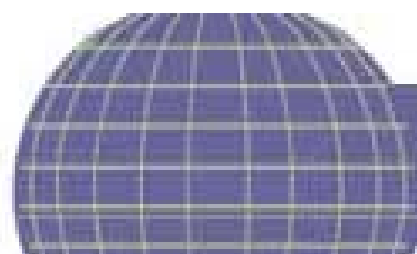
2011年9月30日現在

自社センター	21 (215,839㎡)
借用センター	54 (448,055㎡)
計	75 (前年度末比+5)

Ⅱ-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



Ⅱ-7. M&Aの取得状況



社 名	株式会社ジェイビーエス JBS Logistics Service Inc.
本社所在地	千葉県船橋市西浦2-5-3
代 表 者	代表取締役社長 秋津 公保
設 立	1984年8月
資 本 金	8000万円
株 主	(株)ハマキョウレックス(東証一部上場)
事 業 内 容	倉庫事業、梱包配送事業、押印・流通加工業
従 業 員	190名(2012/6/1現在)
年間取扱高	12億50百万円(2011年度)
主な取引先	JTBグループ会社、JR東海ツアーズ、クラブメッド、はとバス、オリエンタルランド、JALパック、ANAハロー、阪急トラピックス 他
グループ会社	(株)ハマキョウレックス、近物レックス株式会社、(株)ロジ・レックス(旧JALロジスティクス) 等

主な事業内容

1. 旅行パンフレットの保管、梱包・出荷業務、販売店名押印業務、差込・セットアップ袋詰め等付帯業務
2. 販促ツール品、用度品の保管、梱包・出荷業務
3. 海外土産品の保管、検品、梱包、出荷業務
4. 旅行用品の保管、検品、梱包、出荷業務
5. ホテルアメニティの保管、梱包、出荷業務
6. その他
首都圏内連絡事業便の運営、トランクルーム(文書保存)業務、不要パンフレットの回収業務、リサイクルトナーの取扱、宅配便特約運賃の取扱



株式会社ジェイビーエス 本社
〒273-0017
千葉県船橋市西浦2-5-3
TEL: 047-437-7716

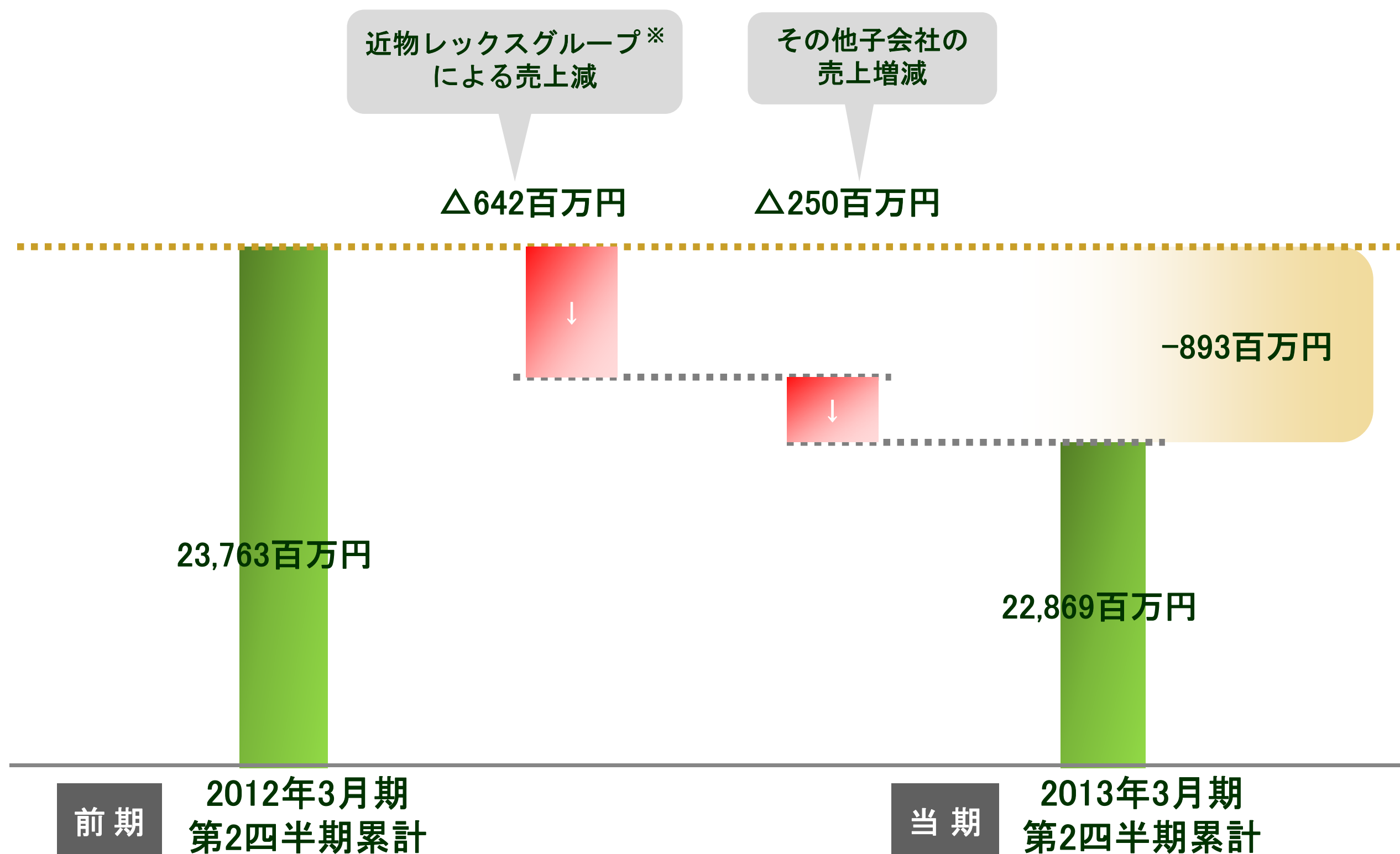


株式会社ジェイビーエス 東北配送センター
〒981-1103
宮城県仙台市太白区中田町字前沖62
TEL: 022-241-3148

2012年4月2日付けで株式の100%を取得しております。
※第1四半期より連結しております。

Ⅱ-8. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス(株)とその子会社3社です。(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株))

概 況

1. 収益の状況(前期比 △893百万円)

- 家電関連を中心とした物量減少

2. 近物レックスの収支改善状況

- 積載率の低い曜日での幹線便の見直し(同 △14百万円/月)

- 日々管理の強化し営業費用を削減

人件費 △123百万円

利用運送料 △371百万円

3. 輸送能力

- 車両台数 3,127 (自社車両:2,167、リース車両:960)

- 延積載屯数 45,961 (トン)



Ⅲ. 2013年3月期 下期に向けて

Ⅲ-1. 2013年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績		個別業績	
	計画	前期比 (増加率)	計画	前期比 (増加率)
営業収益	91,000	+1,064 (+1.2%)	36,000	+1,827 (+5.3%)
営業利益	6,900	+371 (+5.7%)	4,300	+248 (+6.1%)
経常利益	6,900	+347 (+5.3%)	4,500	+297 (+7.1%)
当期純利益	3,500	+76 (+2.2%)	2,600	+174 (+7.2%)
設備計画	2,800	***	1,200	***

(平成24年5月10日公表数値)

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	44,000	+1,466	(+3.4%)
	営業利益	5,500	+291	(+5.6%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	47,000	Δ401	(Δ0.8%)
	営業利益	1,400	+84	(+6.4%)

Ⅲ-2 . 経営指標

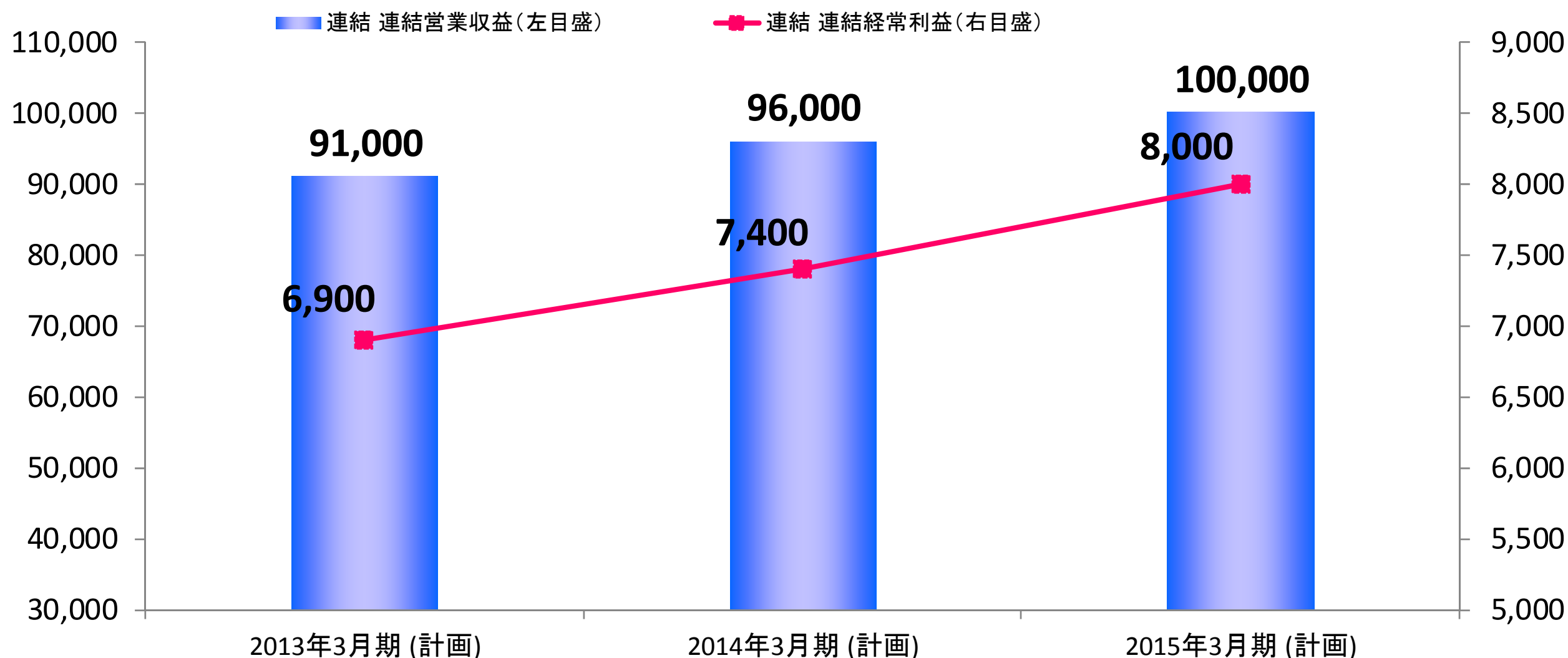
	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	200.47	286.92	339.57	409.84	419.00
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	10.5	13.6	14.1	14.9	13.4
1株当たり純資産(円) 〔BPS〕	1,983.94	2,245.82	2,554.02	2,929.91	3,309.91
総資産経常利益率(%) 〔ROA〕	5.3	6.4	7.3	7.7	8.1
営業収益営業利益率(%)	5.2	6.3	6.8	7.3	7.6
営業収益経常利益率(%)	5.0	6.4	7.1	7.3	7.6
1株当たり配当金(円)	30	32	36	38	40

Ⅲ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2013年3月期 (計画)		2014年3月期 (計画)		2015年3月期 (計画)	
	連結	個別	連結	個別	連結	個別
営業収益	91,000	36,000	96,000	40,000	100,000	44,000
経常利益	6,900	4,500	7,400	5,000	8,000	5,500
当期純利益	3,500	2,600	3,800	2,800	4,200	3,100
1株当たり当期純利益	419.00	311.26	454.29	335.20	502.80	371.12
営業収益経常利益率	7.6%	12.5%	7.7%	12.5%	8.0%	12.5%
設備投資計画	28億円	12億円	76億円	60億円	28億円	12億円

(2012年5月10日公表)



Ⅲ-4. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、**提案型物流企業**をめざす

「営業本部」・「開発本部」・「管理本部」が一体となり、無駄なコストの削減をはかる

2. 3つのキーワードを中心とした取組みの継続

「**日々収支**」「**全員参加**」「**コミュニケーション**」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦してまいります。

3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

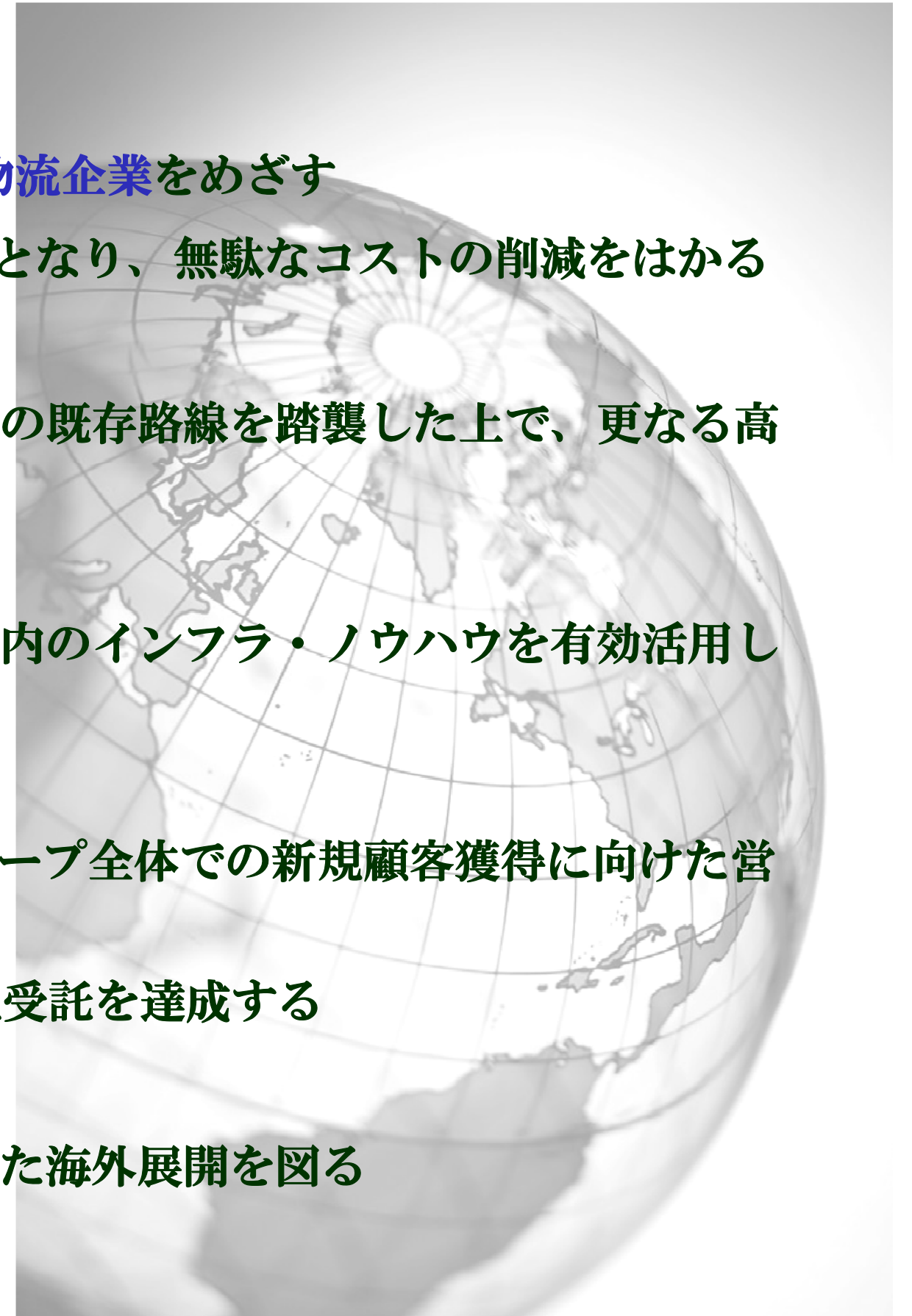
4. 新規顧客獲得に向けた取組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標**15社以上**の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



IV. 2013年3月期 第2四半期 決算実績

IV-1. 四半期会計期間（3ヶ月）の業績

(連結;百万円)

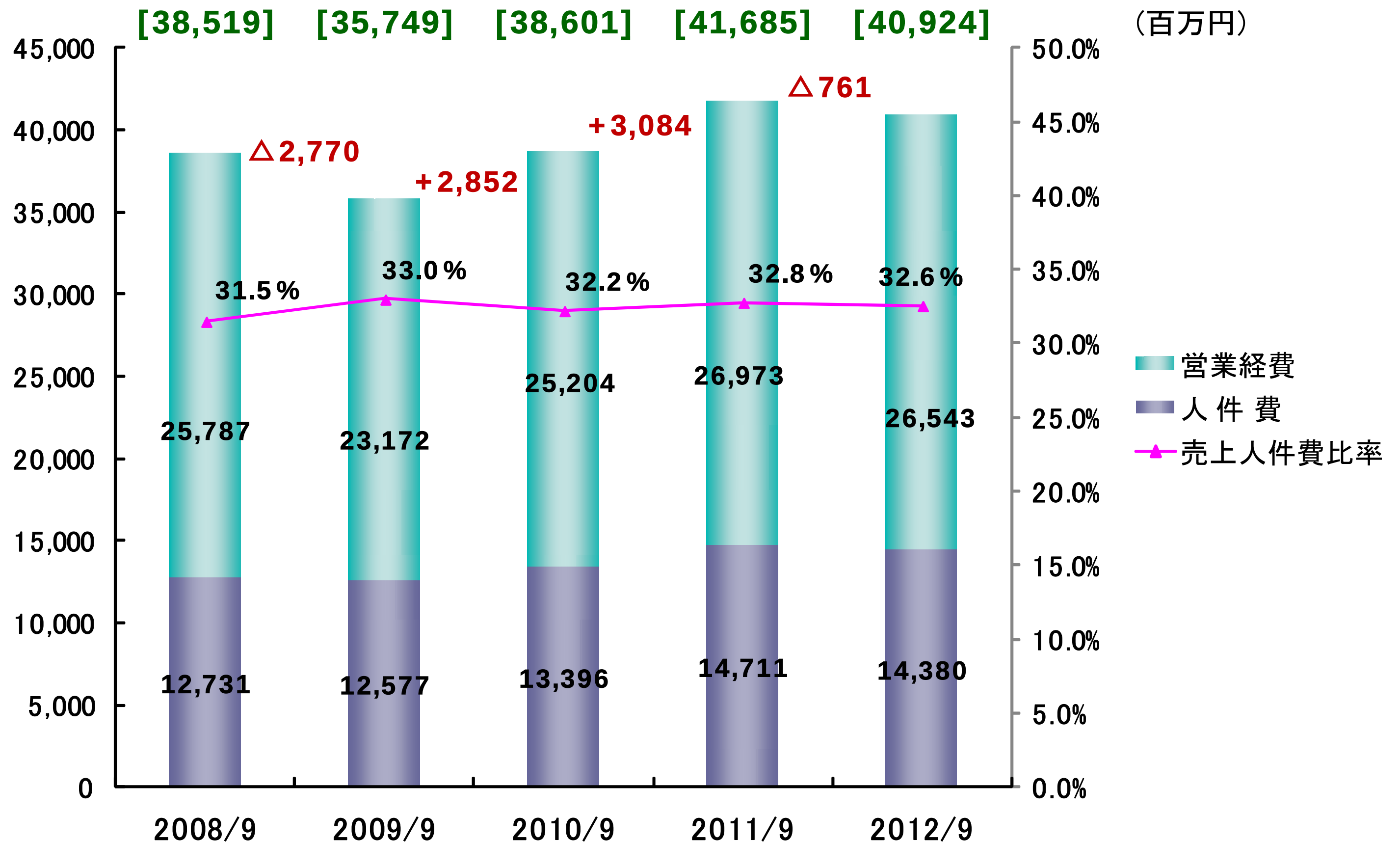
	第1四半期			第2四半期		
	2012/6	前期比 (増減率)	売上比	2012/9	前期比 (増減率)	売上比
営業収益	22,132	△240 (△1.1%)	—	22,017	△474 (△2.1%)	—
営業利益	1,694	+85 (+5.3%)	7.7%	1,531	△38 (△2.4%)	7.0%
経常利益	1,747	+141 (+8.8%)	7.9%	1,572	△15 (△1.0%)	7.1%
四半期純利益	870	+42 (+5.1%)	3.9%	857	+44 (+5.4%)	3.9%

IV-2. セグメント別四半期会計期間（3ヶ月）の業績

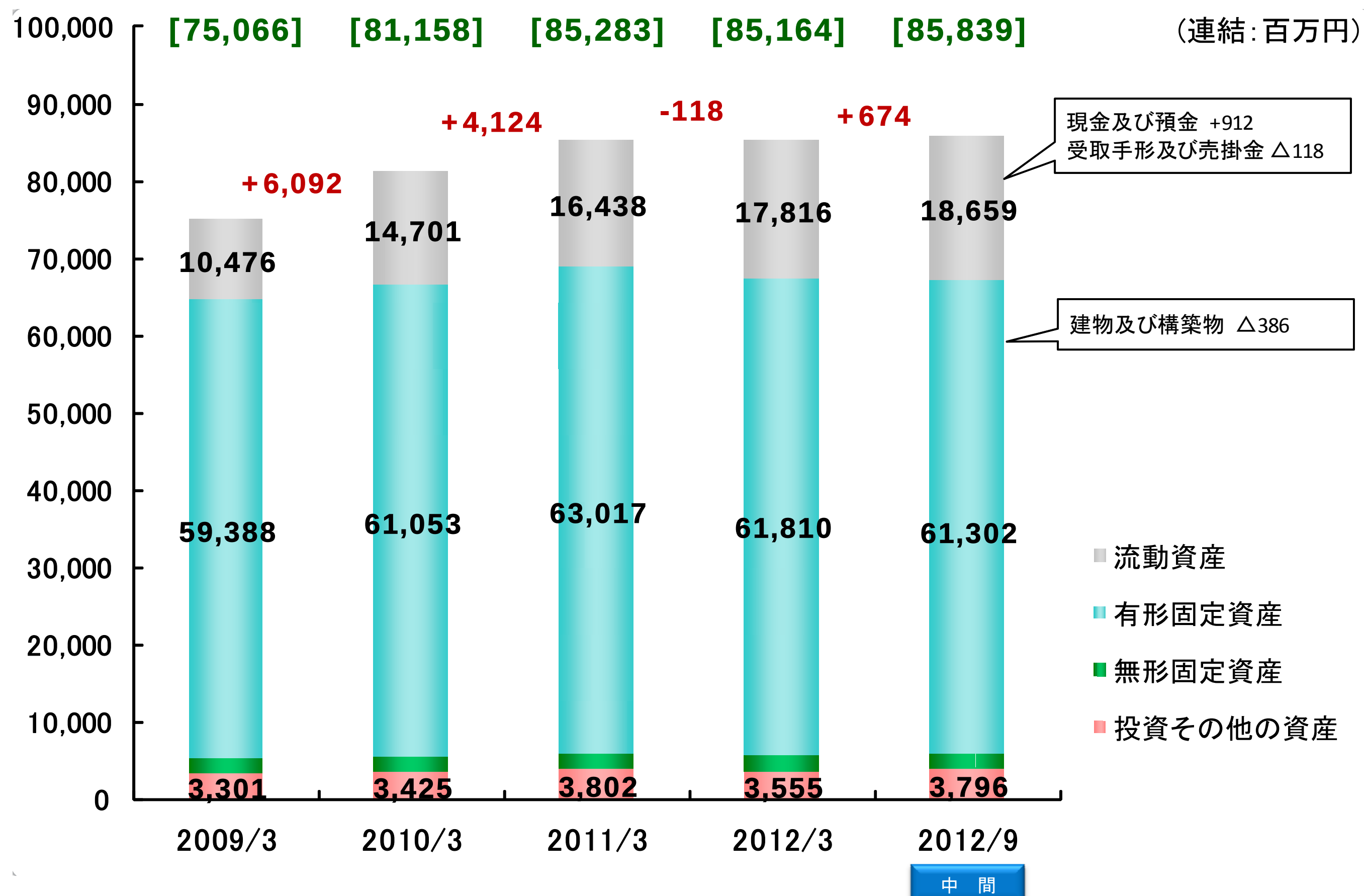
（百万円）

		12年3月期第1四半期 （4月～6月）		12年3月期第2四半期 （7月～9月）		12年3月期第2四半期 累計（4月～9月）	
		当期実績	前期比 （増減率）	当期実績	前期比 （増減率）	当期実績	前期比 （増減率）
物流センター 事業	営業収益	10,587	△25 （△0.2%）	10,692	+204 （+1.9%）	21,280	+178 （+0.8%）
	営業利益	1,385	△29 （△2.1%）	1,157	+2 （+0.2%）	2,543	△26 （△1.0%）
貨物自動車 運送事業	営業収益	11,545	△215 （△1.8%）	11,324	△678 （△5.7%）	22,869	△893 （△3.8%）
	営業利益	306	+113 （+58.6%）	372	△41 （△10.0%）	678	+71 （+11.8%）

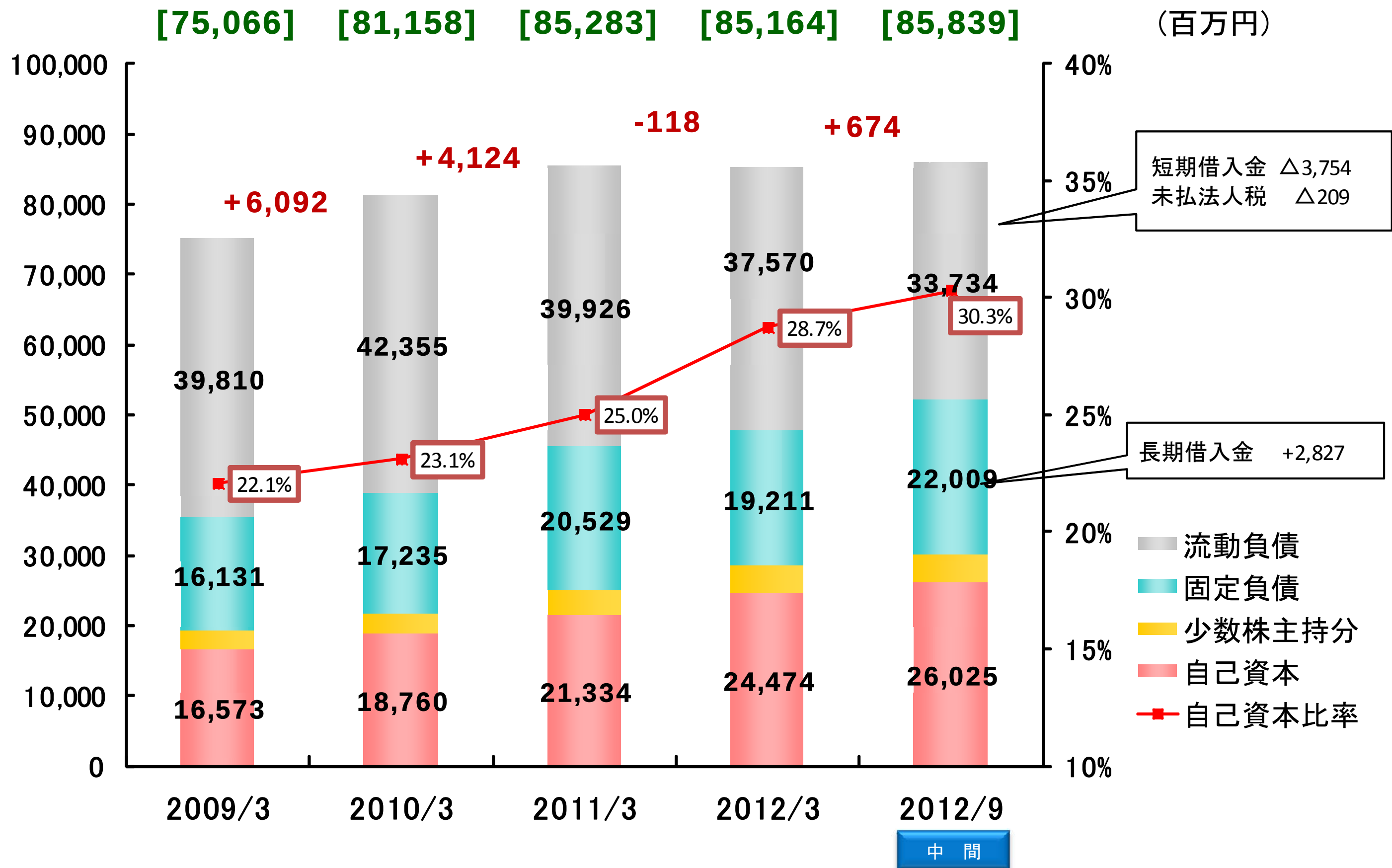
IV-3. 経費・人件費



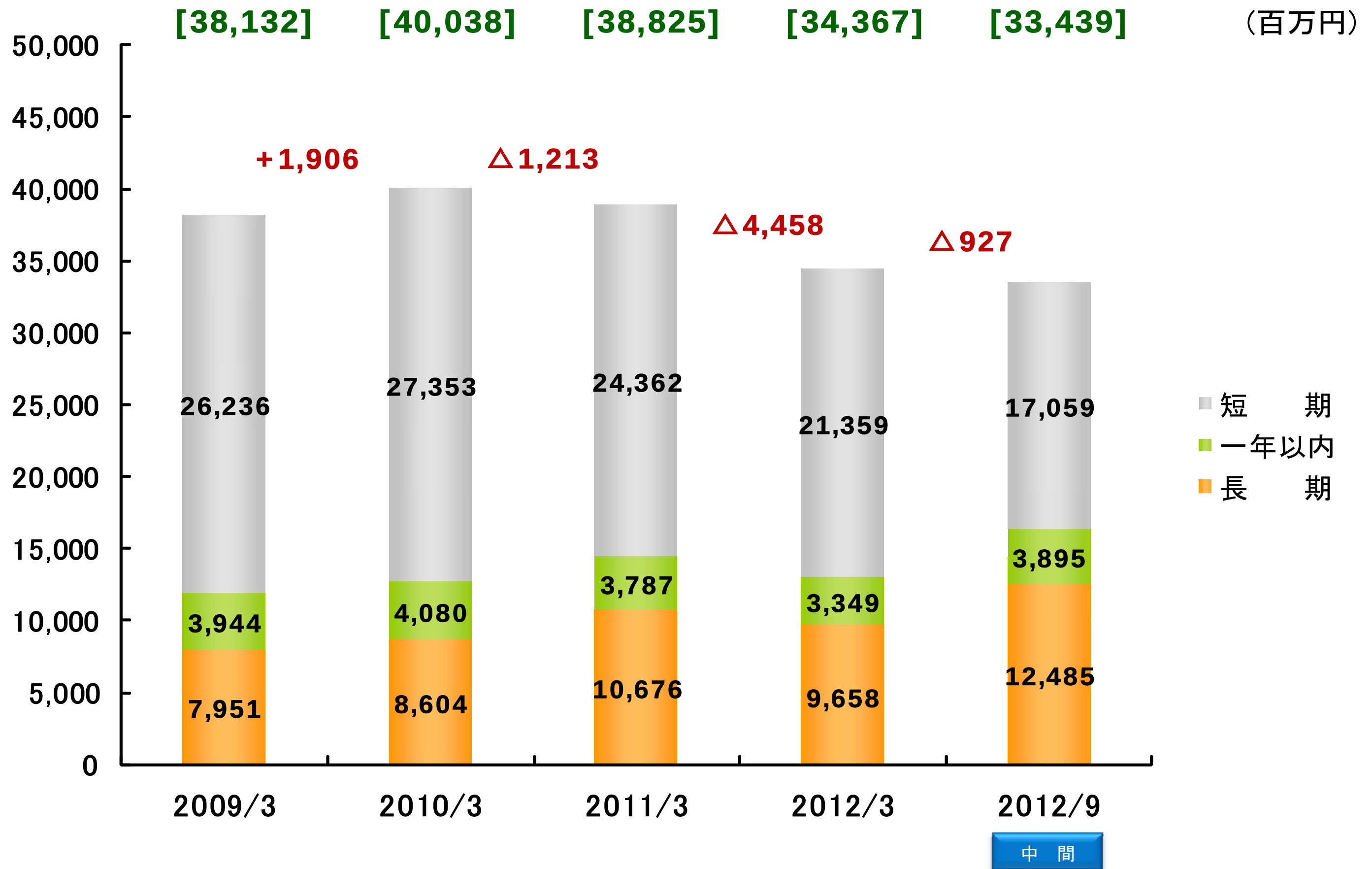
IV-4. 貸借対照表<資産>



IV-5. 貸借対照表＜負債・純資産＞

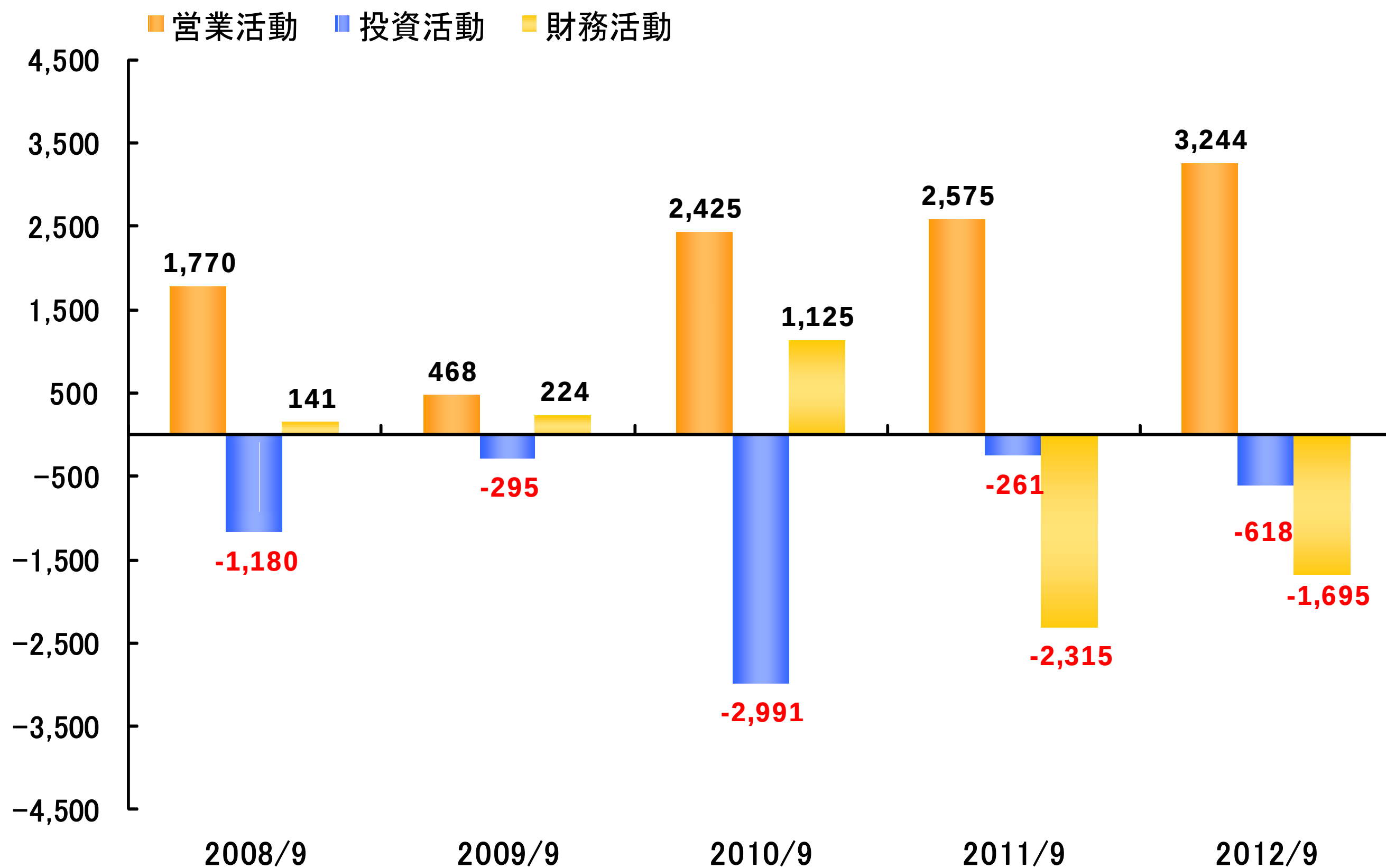


IV-6. 有利子負債（借入金）

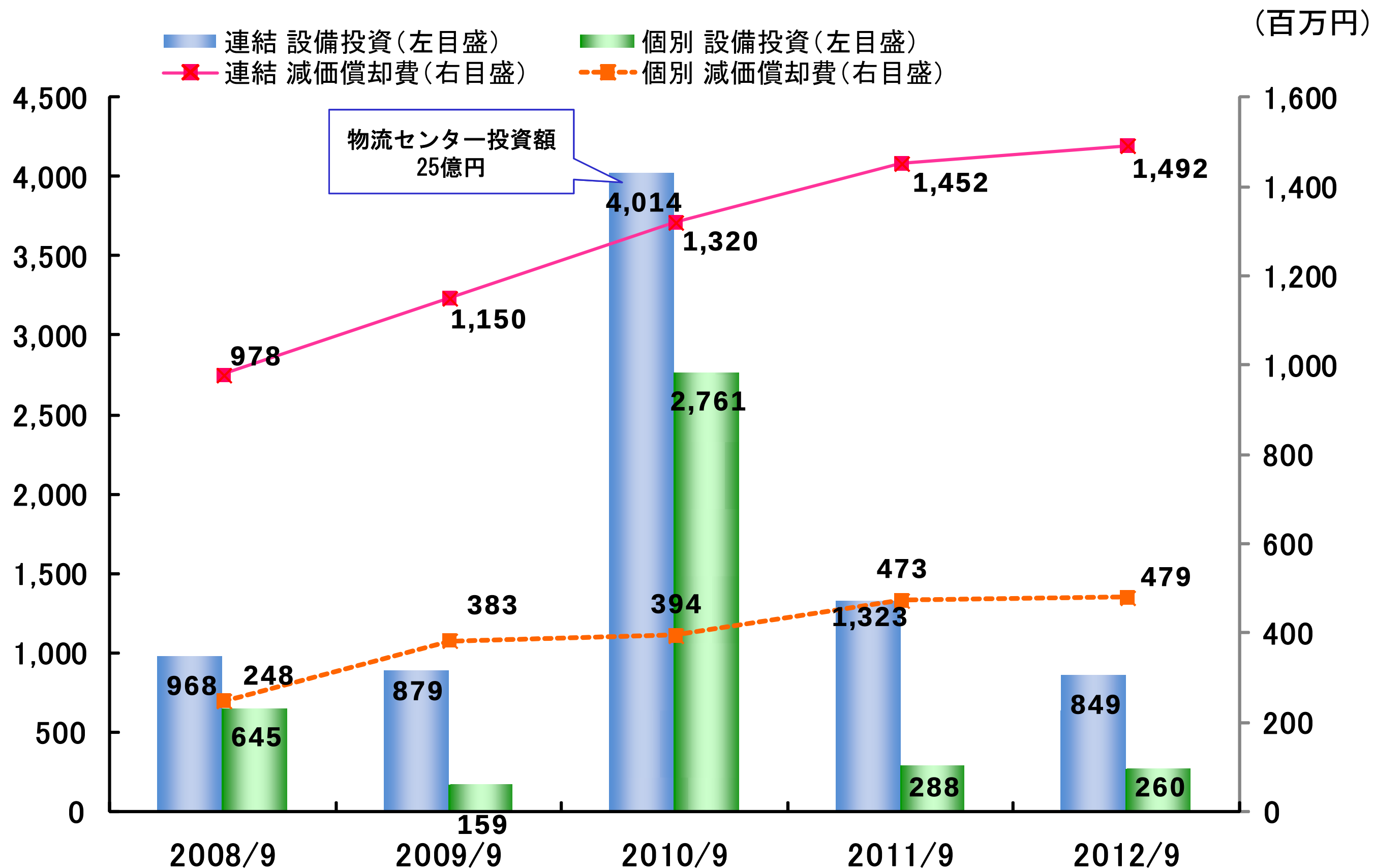


IV-7. キャッシュ・フロー

(百万円)



IV-8. 設備投資・減価償却費



V. 近物レックスの現況と 今後の戦略

V-1. 近物レックス 第2四半期累計期間の業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2011/9	2012/9	前期比 (増減率)	2012/9	計画比 (増減率)
営業収益	17,890	17,214	△676 (△3.8%)	18,008	△794 (△4.4%)
営業利益	164	214	+50 (+30.3%)	246	△32 (△13.1%)
経常利益	37	163	126 (+330.8%)	100	+63 (+62.2%)

V-2. 近物レックス 上期の状況・取組み

- | | |
|------------|--|
| 1. 収入の状況 | <ul style="list-style-type: none">・ 1Q（前年△3%・計画△2%） 2Q（前年△6%・計画△5%）・ 東高西低...特積について、中部を含む西日本からの発送量が減少・ センター通過金額減少による物流請負業務の不振（計画比△5%）・ グループ営業での新規受託3件（下期に効果）・ 大型新規案件の提案、同業との取引の活性化 |
| 2. 幹線便の再編 | <ul style="list-style-type: none">・ 週末の効率化減便による自車稼働率と積載率の向上・ 積載率（前年+2%）・幹線費用（前年△3%） |
| 3. 日々管理 | <ul style="list-style-type: none">・ 日計収支とWeb会議により、無駄な費用の抑制と迅速な対応が可能 |
| 4. 燃料費抑制 | <ul style="list-style-type: none">・ 現行業者の見直しや購入比率の見直しで、より安価な単価が実現・ エコ運転制度導入と幹線便の再編により軽油使用量前年△5% |
| 5. 輸送品質の向上 | <ul style="list-style-type: none">・ 新HHT導入によるサービスの向上 |

V-3. 近物レックス 下期以降の戦略

1. 収入の確保
- ・ 既存営業強化
不振店所の底上げとバーター取引の拡大
 - ・ 大型案件への着手提案
グループ営業を中心とした3P L 提案と提案済案件の早期実現
 - ・ 自社倉庫の稼動向上
既存顧客への提案とグループでの有効活用により保管商品を確保し、利益率向上へ
 - ・ 物流請負業務
収支管理強化により、物流請負業務の安定運営

2. 費用の抑制
- ・ 運送外注費
単価の適正化と日々管理による使用頻度の抑制
 - ・ 燃料費抑制
調達先の選定方法変更とインタンク使用率向上による単価の抑制
 - ・ 勤怠管理
業務に応じた休日取得推進と時間外のコントロール
 - ・ 道路使用料管理
幹線便の道路使用区間見直しと本社によるチェック機能の強化
 - ・ その他
日計収支精度向上により、無駄の排除

V-4. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	見 込 2013/3	計 画	
		2013/3	計画比 (増減率)
営業収益	34,767	36,192	△1,425 (△3.9%)
営業利益	490	607	△117 (△19.3%)
経常利益	319	317	+2 (+0.4%)

VI. 参考情報

VI-1. 物流センター事業

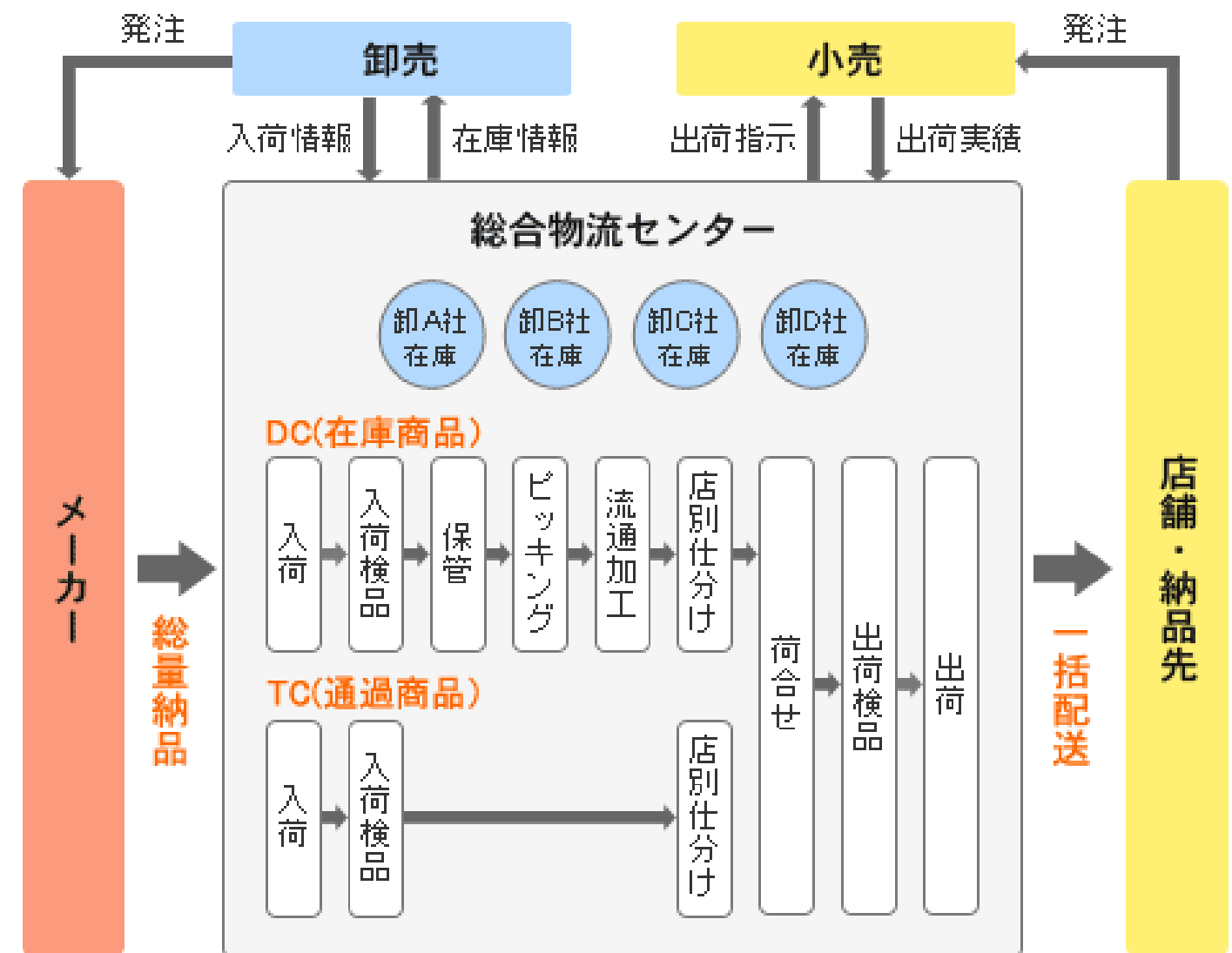
当社は**3PL(3rd Party Logistics)**をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。

物流センター事業例
～在庫保管型センター（DC）の場合～



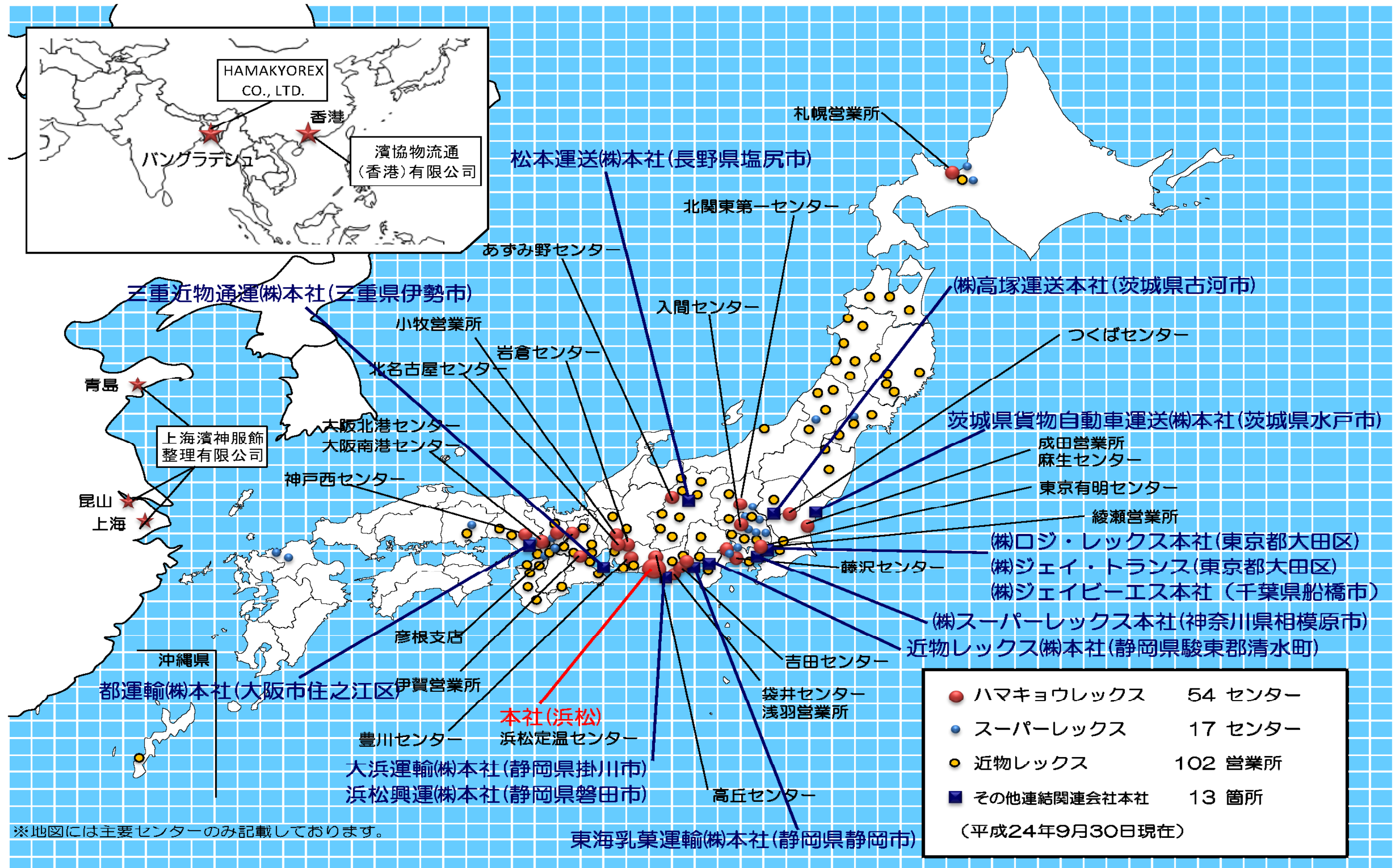
コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支※1**」・「**アコーディオン方式※2**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

VI-3. 拠点紹介



I R 関係問合せ先・担当者

- 常務取締役執行役員 山崎 裕康
 - 経営企画室 課長 石塚 智規
- TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。